

平成26年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名

学校法人立花学園立花高等学校

I 概要

1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型のいずれかに○を付してください。

<input type="checkbox"/>	Ⅰ型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
<input type="checkbox"/>	Ⅱ型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
<input checked="" type="checkbox"/>	Ⅲ型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
学校法人立花学園	高等学校	全日制	立花高等学校（たちばなこうとうがっこう）

2 研究課題

発達障害の特性を生かした就労支援の在り方
～普通科高校における社会福祉法人及び企業との連携によるデュアルシステムの構築を目指して～

3 研究の概要

- ①モデル地域における取組
- (ア) モデル校の関係機関等による就労支援ネットワークの構築
 - (イ) 発達障害に対する理解啓発推進研修会の実施
 - (ウ) 地域の特別支援学校との連携
- ②モデル校における取組
- (ア) 就労支援コーディネーターの配置
 - (イ) 障害者就労及び発達障害についての研修
 - (ウ) キャリア教育・職業教育の改善充実
 - (エ) デュアルシステムの構築
 - (オ) 発達障害についての啓発活動

4 研究の成果

- ①モデル地域における取組
- (ア) 社会福祉法人「野の花学園」との業務提携就労移行支援事業所「キャリアワーク立花」と連携ができた。卒業生の自立訓練に合わせて年間を通して在校生が同所で活動を体験することにより、より専門性の高い作業を経験でき、自己の特性の発見と開発に直結した。また毎月連携会議を行うことで、相互の理解も深まり、本校教職員のスキルアップにつながった。
 - (イ) 「高校生セイフティネットワーク」主催の「特別支援教育に関するセミナー」を実施した。2日間に渡り述べ400人以上が参加し、高等学校における特別支援教育の在り方について

て有意義な情報交換を行い、特に分科会においても就労支援の在り方について研修を深めることができた。

- (ウ) 「高校生セイフティネットワーク」主催の「特別支援教育に関するセミナー」に福岡県立の特別支援学校の先生にも実行委員として参加していただいた。私学が主催する行事に特別支援学校の先生を実行委員としてお迎えする事で、公私連携を図った。また分科会における実践発表者にも特別支援学校の先生を招聘し、研修内容を深めた。

②モデル校における取組

- (ア) 就労支援コーディネーターの配置により生徒と事業所のマッチングがスムーズに行えた。初年度の実施で、実習先の開拓には相当な困難が予想されたが、200名を超える生徒達の実習先をほぼ完全に保証することができたのは、就労支援コーディネーターの力によるところが大きく、また実習のみならずその先の就労先の確保にも直結した。多大なる効果があった。
- (イ) 外部講師を招聘しての教職員研修会を行なった。
年間を通して様々な校外講師の方々の招聘が実現し、教職員の意識改革、スキルアップをおこなうことができた。
- (ウ) キャリア教育・職業教育の充実を図った。
3年間を通してのキャリア教育・職業教育の必要性を教職員が理解し、昨年度までと比較するとより学校全体で生徒達の就労を支援しようという雰囲気が大きく広がった。
- (エ) 1年次の短期職場体験学習を実施した。
次年度に向けて1年生の短期体験学習を実施したことにより、3年間を系統だてた職業教育に向けての具体的な実践が深まった。
- (オ) 2年次3年次の長期職場体験学習を実施した。
前期3週間、後期4週間の長期体験学習を実施し、参加した生徒達が大きな自己有用感を体得することができた。これまで就労の大変さをイメージしていた生徒達に、新しく就労の素晴らしさや働くことの意義を直接体感できたことは学校生活にも大きな影響が見られ、遅刻が減ったり授業中の態度が意欲的になる等の効果が早速確認できた。
- (カ) 職場体験学習での職場開拓の際、生徒の特性を理解していただくように話をし事業所の理解が得られるように努力した。
これまでどちらかと言うと地域でも特異な目で見られることが多かった本校の生徒達の、本来持つ素直で明るい人柄について職場での方々に理解が広まり、本校の教育を応援して下さる地域のうねりへとつながっていきこうとしていることを実感している。

5 課題と今後の方策

1 計画的・系統的な職員研修が実施され研修によって知識を身につけたが、その知識を日々のクラス経営や生徒指導にまだ十分に生かされていない。

2 長期職場体験学習でのミスマッチが課題（生徒の特性に合わない事業所での職場体験）

理由として考えられるのは、教員が本人の特性を十分に掴めていない場合。またその特性にあった事業所を開拓できなかった場合などがある。

3 長期職場体験学習に向けての事前学習会が不十分になり体験先事業所に迷惑をかけるケースがあった。

理由として考えられるのは、日々の進路学習の積み重ねが十分でなかった事。（取組直前の学習会だけでは身につけられる力に限界がある。社会人スキルとしての報告連絡相談や時間を守るなどは毎日の学校生活の中で日々積み重ねて、身につけていく力である。）

3 長期職場体験学習終了後、その経験を学校生活や進路活動に生かす事。